

組織グループ LOM開発委員会

協議会と連携したLOM開発

Action! sheet

<運動の背景・目的>

① 実施背景

全国のLOMの最頻値は11名～20名で約28%であり、メンバーが20名以下のLOMは約40%と会員の減少が進む中、少数LOMであっても社会開発運動の展開を行うことができるLOMへと開発することが必要とされている。

② 実施目的

協議会と連携し様々な支援ツールを適時的確に活用し、自走するLOMを増やすことを目的とする。

<実施スケジュール>

9月～	引継ぎ、調査
10月～	各協議会、各LOMの調査、研究
12月～	各協議会との連携、準備
1月～	個別最適化された会員開発支援の推進
1月～	協議会と連携した支援の推進
9月～	検証、引継ぎ

<運動推進のステップ>

理想とする未来

地域の特色を理解し顔が見える関係性を構築することで、LOMが自走する組織体制が確立され、JCがまちを変える存在となった未来。

01

協議会と連携した
LOM開発状況の
調査・研究

- ・日本JCが有する支援スキームを協議会と連携し、効果的なLOMの支援方法を調査する。

02

協議会と連携した
LOM開発に関する
企画・立案・実施

- ・地域の特色やニーズに応じたリーダー育成と持続可能な運営を重視し、JCの理念を伝えながら支援スキームを活用して中長期的な開発支援を行う。

03

個別最適化された
会員開発支援
の推進

- ・各協議会と連携し、情報収集を行ったうえで、日本JCの提供する最適な開発支援ツール支援を選択し、共に運動を展開しメンバーの成長と発展を支援する。

04

協議会と連携した
LOM支援の推進

- ・規模や地域によってLOMが抱える問題は様々であり、地域やLOMの特色に寄り添う個別最適化した支援が必要となる。
- ・過去の取り組みを十分に理解しデータと照らし合わせることでより効果的な支援を協議会と連携し推進し持続可能なLOMを構築する。

運動実行

必要に応じて軌道修正

<パートナー、アドバイザー>

・一般社団法人ひたちなか青年会議所
第29代理事長 萩谷 樹莉 先輩

・佐賀県産業政策課 主任主査
楠田 詞也 氏

LOMの課題を解決し事業を最大化させるヒントとなるセミナーを開催する。

<サマーコンファレンスまでの成果>

① 運動としての成果

社会開発運動の展開を実施することができていないLOMを支援することで、LOMが自走する未来を作る。

② 地域の変化

社会開発運動を展開することで、まちの課題が解決され、より一層まちが豊かになる。

Gian Pocket

誰でも地域に合った運動の構築ができる！
運動の推進議案をチェック！

gian pocket



ACTION!

どうしたらいいかわからない！を解決する
相談・サポートの申し込みはこちらから！
日本JCの会議委員会が、2026年に向けて
の運動構築方法をサポート！

